

のんた大島よいところプロジェクト

代表者 林美咲（国際B 3年）
構成員 大島愛（国際B 3年）坂田菜月（国際B 3年）臺野貴大（国際B 3年）
山中彩耶可（国際B 3年）浅井真綾（経済B 2年）
藤原虎留（工学B 2年）浜崎守麗（経済B 1年）

1. 目標設定・活動形態

まず、周防大島町における活動の目標として、①子ども達の（家・学校に次ぐ）第3の居場所を創る②子ども達の郷土愛を育む③地元を離れた人々に対する周防大島のイメージアップ・イメージチェンジ を掲げた。活動のきっかけは、周防大島町立沖浦小学校を卒業した同級生が、子どもの人数が少ないことから人間関係が広がりづらい、また友人が周防大島に対してマイナスなイメージを持っていたと話していたことである。放課後児童クラブのような取り組みがされていない沖浦地区を対象に選び、月に1度、活動の足掛かりとして交流イベントを行うことで居場所の基盤となる人間関係を築くことを目的とした。

2. 事前調査

イベントを行うための事前調査として、周防大島町立沖浦小学校の校長先生・教頭先生とお話させていただき、アドバイスをいただいた。小学校を通じて全校生徒20名の保護者の方に紙面のアンケートを配布し、児童の放課後の過ごし方やイベントへの意見などをお聞きした。その結果、イベントを行う意義を確認できたため、企画を本格的に開始した。また、8月16日にフィールドワークを行い、イベント開催場所の候補であった沖浦農村環境改善センターとその周辺を視察した。その際、食推代表の西岡さんに調理スペースなどの説明をしていただいた他、周防大島町役場の方からもお話を伺った。さらに、子ども食堂を開催することを視野に入れ、山口県こども食堂支援センターの杉山様と対面でお話しし、県内の食堂の現状やアレルギー対応の仕方、チラシの作り方、食材の調達方法などについてお聞きした後、フードバンク山口を視察した。食材や調味料の保管スペースを見せていただき、食材を分けていただく際のルールを学んだ。

3. イベント

コロナ禍の影響もあり、本来の予定より少なくなったが10月・11月・12月の3回、イベントを行うことができた。10月30日には憩いの家ふるさとを借り、ハロウィンイベントを開催した。アイスブレイキングゲームとハロウィンの衣装づくりを行い、その後作った衣装を着て事前にご協力をお願いした4名の地元の方の家を巡って、キーワードを集めた。イベント終了後にはアンケート調査で子ども達の高い満足を得られたことが分かり、また改善点も判明した。アンケートは低学年の子ども達にも分かりやすいよう、星を塗りつぶす形式や平易な言葉を使って作成し、イベントごとに改善した。

11月28日には講師の方をお招きし、沖浦農村環境改善センターにてハーバリウム作りイベントを行った。瓶の中に入れる花は、地元の大内バラ園様を訪れて購入し、メンバーで手分けして乾燥させた。子供たちは3つずつハーバリウムを作成し、持ち帰った。

12月25日にはクリスマスイベントを行い、沖浦農村環境改善センターにて2つのレクリエーションとクリスマスカード作りを行った。レクリエーションは事前に作成したお題カードを元に自己紹介をした後、じゃんけんゲームをした。カードはその後子ども達の間で交換し、持ち帰った。

1月イベントはかるた大会を予定して物品の購入などを進めていたが、町内でコロナ感染者が増加したことなどからやむを得ず中止とし、小学校を通じてオンラインの寄せ書きメッセージをプリントアウトしたものを子ども達へ送った。

4. 発信方法

ビジョンの一つである「地元を離れた人々に対する周防大島のイメージアップ・イメージチェンジ」に基づき、Instagram・Facebook を利用して情報発信をした。初めに活動の趣旨とメンバーの自己紹介を行い、その後は主に毎月のイベント内容の告知をした。フォロワー数は Instagram で196人となり、発信を元にイベント会場までお越しいただき、子ども達との交流に参加してくださる方もおられた。毎月のイベントの告知はポスターを作成して行った。

5. 活動について

本プロジェクトには、鳥取大学より2名、安田女子大学より1名、琉球大学より1名が活動に加わった。週に1回、月曜日の19時から20時に定期的なミーティングを開き、役割分担や意見交換、イベント後の反省を繰り返し行った。議事録や資料の作成・共有にはGoogleドキュメントとLineグループを利用した。最終ミーティングでは、目標の達成状況やイベントの頻度など、5つの項目で5段階評価を行って活動全体を振り返り、今後の活動を続けていく際の改善点を明確にした。



8月フィールドワークの様子



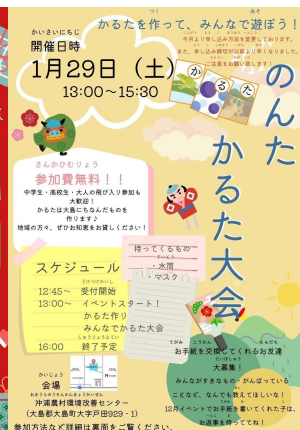
10月イベントの集合写真



11月イベントの作品



12月イベントの集合写真



イベントポスター（左から順に11月、12月、1月）、プロジェクトロゴ（のんたの文字より）

6. 振り返り

アンケート調査では、どのイベントでも子ども達の高い満足度が得られた。「中学生になってもこんなイベントに参加したい」「思っていたよりもずっと楽しい」などの言葉を聞くことができ、メンバーにプレゼントや手紙を持ってきてくれる子や、星5つの評価に対して、星をいくつも追加して塗ってくれた子もいた。一方で、運営側には反省点が多かったように感じる。特に、メンバー間の作業量の偏りやモチベーション維持の不足、物品の管理不十分が挙げられる。また、地域の方々にも期待していたよりも参加していただけなかった為、高齢者の方でも参加したくなるような企画を取り入れる必要があるという意見が挙がった。今後の活動に活かしていきたいと考えている。

最後に、ポスターやアンケートの郵送・掲示などで多大なるご協力をいただき、会場にも足を運んでくだ

さった沖浦小学校の先生方，書ききれないほどの励ましとお力添えを下さった自主活動支援センターの石井様，学生支援課支援企画係の平川様，11月イベントでご同行いただいた支援教員の高橋先生，プロジェクトへのご理解・ご協力をいただいた町民の皆様に心から感謝申し上げます。